

バス
buzzれ！ 益城町 ※バズる…口コミで話題になること

株式会社バズったーと立地協定締結

町は3月15日、県を立ち会い人として、ウェブサイト制作やウェブ検索の最適化などを手掛ける株式会社バズったー(東京都)と立地協定を結びました。

同社は、今月から操業を開始する予定で、3年間で30人の新規雇用を見込んでいます。なお、ノウハウを生かし、町内事業者のPR支援も行います。

協定に際し、熊本市出身の土肥大夢社長は「益城町の“話題化”に挑戦し、生まれ育った地域に貢献したい」と、本町に立地を決めた理由を述べました。



県庁で行われた立地協定調印式。右から3人目が土肥社長



左から2人目が赤坂社長、一番右は派遣職員の川合万太郎さん

空とつながる「にぎわいづくり」

日本航空株式会社と地域活性化等連携協定締結

町は3月24日、日本航空株式会社(東京都)と「地域活性化等に関する連携協定」を結びました。

この協定により、同社が持つノウハウ・ネットワークを活用した「新しい観光」の振興や特産品開発を行うほか、同社から、創造的復興の力になるノウハウを持った職員が町に派遣されます。

同社の赤坂祐二社長は、「グループ社員一丸となって益城町、さらには熊本県の活性化に取り組んでいきたい」と、協定に際しての抱負を述べました。

町の未来への贈り物

町の歴史のかるたと砥川用水路のパフレットが完成

「益城町歴史・文化歌留多研究部」と「益城ほりおこし隊」がそれぞれ補助金を活用し、「益城町の歴史・文化歌留多」と「砥川用水路を歩く」パンフレットを作成。3月12日、町長室を訪れ、完成を報告しました。

かるたは、町内の学校、老人会などに配布されており、早速3月15日、馬水南公民館で開催されたサロン「結いの会」で、このかるたを使用した大会が行われました。参加者からは、「町の歴史や文化が札になっていて、かるたをするだけで勉強になった」と、とても好評でした。

パンフレットの題材になった砥川用水路は、水不足に悩む砥川地区のために富田茂七が造り上げたもの。パンフレットは、用水路周辺の地図や茂七の偉業がまとめられており、飯野地区の全世帯に配布されたほか、役場仮設庁舎の案内窓口などに置かれています。また、3月19日には、砥川地区で井手祭りが開催され、約20人の地区住民などが、茂七への感謝の気持ちをささげました。



1 完成したかるたとパンフレットを手に記念撮影 2 砥川用水路のパフレット 3 益城町の歴史・文化歌留多 4 みんなで和気あいあいと楽しんだかるた大会 5 富田茂七顕彰碑前で開催された井手祭り